

国際社会入門

2.地元と世界——なぜ小学校の 頃の友達と話が合わなくなるの か

富永京子
nomikaishiyouze@gmail.com
Kyokotominaga.com

よろしくお願いします

担当教員の連絡先は以下のとおりです。

Email: kyokotom@fc.ritsumei.ac.jp

Line: Kyoko Tominaga (ID:nomikaishiyouze)

研究室：修学館332号室（月、水、木）

K.Tominaga

授業を聞くにあたって

- この授業では、レジュメ・プレゼン資料の配布を行いません。
- 一人一人にとって重要だと感じられる概念も違いますし、生活と結び付けやすいものとそうでないものもあると思います。ぜひ、**自分にとって重要だと思う概念だけ**をメモするなり、写真に撮るなりして、持って帰ってください。

K.Tominaga

おすすめの復習の仕方

- 今日学んだ概念（言葉）を用いてSNSに書いたり、身近な人と話したりするのがおすすめ

K.Tominaga

授業前の下準備に

- 富永のウェブサイト-「国際社会入門」のページより、毎週月曜日に簡単な課題が提示されます。それについて少し考えてきてください。
(本当に簡単なので、授業前の休み時間などでOK)
- URL : kyokotominaga.com
パスワードは「ritsumei」

K.Tominaga

前回の授業から

- いろいろおもしろいご意見をいただき、ありがとうございました。授業前に紹介します。
- それに付け加えて、国際社会トリビアや重要な概念も紹介します。あなたの世界を見る目が少し変わるかも..... ?

K.Tominaga

MACの化粧品



K.Tominaga

MACの化粧品

- カナダの化粧品メーカー
- 日本でも多くの百貨店で販売されている
- 「日本人向けの商品」「アジア人向けの商品」を開発している (こうしたメーカーは非常に多い)

「日本人向け」「アジア人向け」とは何を意味するのか？

K.Tominaga

化粧品ブランドと「日本」

- ランコム (LANCOME) はとりわけ日本向けに力を入れているブランド
- 「日本での製品開発」を強調 (LANCOME ホームページ)
- 日本人の肌色、骨格、肌質、髪質、髪色
→ 内的環境
- 各種法律 (薬事法など) 、気候 (湿度)
→ 外的環境

K.Tominaga

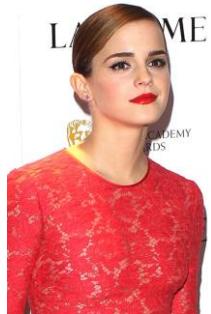
ファッション・コスメと「人種」

- 私達の衣服もコスメも、私達の「身体」と大きく結びついている
- 肌色、身長、骨格、筋肉／脂肪.....
- 道路の舗装状況、高低差、室内、トイレ・バスルーム (和式／洋式)

→だからこそ、その差異や同一性をめぐつて、大きな問題となることもある

K.Tominaga

LANCOMEとエマ・ワトソン



- 2013年、美白美容液の宣伝でそばかすを隠し、「真っ白な肌」を表現した広告に出演
- 「白いことの美しさ」を強調することは、有色人種の人々を毀損するとの指摘がある
- エマ・ワトソンが有名なフェミニストとして知られていたこともまた、批判の原因となった。

→一国・一地域・一人種の価値観を、他者に押し付けることの問題性

K.Tominaga

エールフランスの広告。何が悪い？



K.Tominaga

ステレオタイプと国際社会

ステレオタイプ

→ 固有の属性を持つ集団（民族、居住地、性別、世代）の特徴を強調して理解・伝達すること
例：大阪府の人＝おもしろい
沖縄県の人＝おおらかだ

K.Tominaga

ステレオタイプと国際社会

ステレオタイプは、ものすごく国際社会のなかで問題視されている

→ **同一性**を押し付けることは、たしかに問題。でも、固定的なイメージを持って色々な集団を併記することが**多様性**への配慮とはならない

→ そこでステレオタイプを避け、政治的に正しい／公平な表現をすることが奨励されている

K.Tominaga

ポリティカル・コレクトネス

ポリティカル・コレクトネス(Political Collectness)

- 特定の集団を差別的に描かないような配慮がなされている（政治的に正しい）状態。
- エールフランスのCMは、ポリティカル・コレクトネスに反するとして非難を浴びた。

K.Tominaga

国際社会と文化の関係

- 自分の身の回りで、ポリティカル・コレクトネスに配慮している／配慮していないドラマや映画、宣伝広告、身の回りの人の言動などを、あとでレポートに書いてみましょう。

K.Tominaga

今回のアサインメント

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」



K.Tominaga

今回のアサインメント

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」



K.Tominaga

今回のアサインメント

ここは通常読みに来て

「いまサツキちゃんには会ったわよ~」
サツキちゃんと言ひ出すのに、静かにワードで「うかる」。サツキちゃんは語る間に、まさら会つてもらな、という気がほんとうにない。なんだか元気なカレよりも先に、とくにいるよな感じ。間違つて距離を離めよと気をかい合へて、共通の話を探して思っているのがほんとうだ。「あの人はよがただね」とからだも展開が見えて、なんだか気が重い。
その前は、普段の夏休みに会つたのを最後に、いつの間にか携帯のアドレス帳から連絡が途絶えていた。元はスルバーネットだつたといふのは、天井が低くて、狭い部屋に、コンクリート打ちっぱなしの床には泥浴とし用のマットがいくつも転がつて、掃除名『一樹』は年どき、同クラスで、年過したが、話したことほとんどなかつた。いつも連絡が途絶えたままだったが、たまに電話が通つて、度数らのあまり場所になつたか、卒業間近など学期始まるやうに喋るやうになつたが、それが何とか、連絡が途絶えたことがあつた。
日曜道場にあら古びたホームセンター。元はスルバーネットだつたといふのは、天井が低くて、狭い部屋に、コンクリート打ちっぱなしの床には泥浴とし用のマットがいくつも転がつて、掃除名『一樹』は年どき、同クラスで、年過したが、話したことほとんどなかつた。いつも連絡が途絶えたままだったが、たまに電話が通つて、度数らのあまり場所になつたか、卒業間近など学期始まるやうに喋るやうになつたが、それが何とか、連絡が途絶えたことがあつた。

「会つたかった」話かけたの。
「え……」
元は元気、きれいになつてわよと、母は上機嫌だ。減多に会わない人と交流は、完全にハイにこなしている。
「サツキちゃんもまだ健身なさすですって」
母は手首をチラッさせながら、それを情報として伝える。
「えー、そーだらしね、それ」
サツキちゃんは東洋の解説は出だはすだから、もうとつに結構と、子供が大人くらいでおおかしくないに。『サツキちゃんみたいに美人な子に限つて、売れ残す』と母は、「そういうもんよ」と口うつた。『サツキちゃんみつて美人な子に限つて、売れ残す』と母は、「そんぞ」と口うつた。

「ちちうのよ、母情報によればサツキちゃんは、いま実家暮らしで、現在家族中といる。向こうの近所を祖父母が聞いていたのでなく、母とどうも、ベラーラ町ついたらしい。うちの子まだ身分よと、彼氏いないのか、私心優先中心だ」
「フリータだかフリーランチだか、二つみみたいな姿でコロコロコロ服しててるから、また遊びあげなつ」
トランペッターは、やナロウン製のイヤーバンドを重のドランクに横め込みながら、母の話は右から左へ流れ、一拍置いて意が頭に入つた。

「……そんぞ」と口うつたの?
「飛機、なかなかたまねる」母は照れなんと微笑もうなづいた。
私はサツキちゃんが高校のころと変わらず、現時点でも親友であることを疑ひない母に、心の機微をうかがはれては理解な相談である。二十歳で私の母番号を教えよとしたときも手を立てたよと口ぶけて話す。もはやこの熱意で、今まで私たちを会せよとしている。でればその調子で、彼の男と引合おうとはしないんだけど……なぜか母のながで私は、結婚なんか興味がない、独立狂盛説明会のとくにないところへ焦りもくなくて、東京に十もいは自動的にいきたいけれど、それに須賀さんと比べれば私なんど、東京にそれはこだわつていただけでもないけど。

K.Tominaga

今回のアサインメント

ここは通常読みに来て

「久しぶり! こつち戻つてたんだつて? また遅ぼうよ、あたし当面ヒマしてるから、いつでも連絡よめだい」
すぐにに連絡を送つて、さつそ来週会おもむろにうつとくなる。飲みに行こうと説うと、『重だがお酒はよくよつて……』ランチにしない? とのこと。気がつけばうちら仕合になつて、ちょっと面倒さい。一人暮し時代の人とまとまるの大好きで、率直して定點を立めたものだけだと、実家で家族に囲まれて暮してると人見しとさ構たきて。そんなのは結構に勉強になつてゐる。

それで高い気質や過酷な電車の乗り換えに耐えつけたのは、腰会のヒスチックなテンションが、ろんのをうわせてくれた。それ心地があつたらだ、全然ハとしない自分も、行き当りばなし無意味に過ぎていく人生も、東京の喧騒にいたまぜになれば、それなりに好がいて見えた。
もじそなにもうせざぶ、嘘か好みない。
いままでの、ぱりやりとたたかれたガラのユルさの、なんとも言えない佗しさだけが、すこすこ、本当に思えた。

その日、夜、サツキちゃんからS.M.S.にメモが届く。

（久しぶり! こつち戻つてたんだつて? また遅ぼうよ、あたし当面ヒマしてるから、いつでも連絡よめだい）

すくに連絡を送つて、さつそ来週会おもむろにうつとくなる。飲みに行こうと説うと、『重だがお酒はよくよつて……』ランチにしない? とのこと。気がつけばうちら仕合になつて、ちょっと面倒さい。一人暮し時代の人とまとまるの大好きで、率直して定點を立めたものだけだと、実家で家族に囲まれて暮してると人見しとさ構たきて。そんなのは結構に勉強になつてゐる。

K.Tominaga

なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか

「主人公」...地元の高校を卒業後、東京で10年過ごす。未婚。フリーライター。実家暮らし。

「サツキちゃん」...地元の高校を卒業後、県内の短大へ。未婚。

→「高三のころの親友」にもかかわらず「音信不通」で「開ききった距離」を感じている。

K.Tominaga

なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか

キャリアの変化と「グローバル化」の関係

グローバル化=人・もの・情報が国境を越えて移動すること。その移動量が増えること。

→国内にいる私たちのコミュニケーションに影響があるのか？

K.Tominaga

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」

グローバル化することによって：

通信・移動が容易になる

→ 交通システムの拡充（鉄道、船舶、飛行機、高速道路、高速鉄道……）

→ 通信システムの発達（手紙、電話、Eメール、SMS、SNS……）

国内も含む広範囲の移動、多様な情報（価値観）にアクセスできる

K.Tominaga

「なぜ地元の友達と話が合わなくなるのか」

多様な情報にアクセスできると……

→ 同じ場所や集団の中にいても、それぞれに異なる情報の影響を受けることになる

⇒ 同じ高校にいても、完全に同じ教育を受けているとは限らない。課外活動や友人関係、放課後の行動はそれぞれ違う。

K.Tominaga

友達とずっと友達でいるにはどうすればいいか

キャリアの変化と「グローバル化」：
→ たとえ継続的に時間と空間を共有して
いたとしても、価値観を共有することま
では不可能
⇒ 「ずっと同じように」友達でいること
は難しい時代
⇒ これを「個人化」とよぶ

K.Tominaga

家族のことをどれくらい知ってる？

こうした「**個人化**」は、友達同士や同僚同士
だけでなく、家族にも起こりうる
→ 人との出会いが広範になり、結婚相手
が選択可能になることによって、違う
地域、職業、出自……の人と家庭を
作ることが可能になる
→ 家庭の中ですら、わかりあえないこと
がある

K.Tominaga

個人化のリスク

これまででは出自をともにしていることが、同じ生き方をすることを想定されていた

→しかし、通信交通手段の発達で、場所を共にしながら違うことをしたり、同じ年代であっても異なる経験をすることはめずらしくない

⇒私たちは、わかりあえず、なにか危機があった際、その危機について理解されないというリスクを負っている

K.Tominaga

いま・ここを共有していたとしても

「コマさん」シリーズ（2014）



アニメ『妖怪ウォッчи』のワンコ一ナー。田舎から出てきた妖怪「コマさん」が都会に出てきて、都会の事物（ファストフード、ICカード式改札機、大規模建造物）に驚くさまをコミカルに描いている。

- 「コマさん」（兄）と「コマじろう」（弟）の差異に注目！

K.Tominaga

すでに場所の問題ではない

地方から都会に出てきたコマ兄弟

→しかし、動機が違う

弟「田舎暮らしはどうもはだにあわねえからあ」兄
「田舎、合わないズラか...」（ちなみに、兄は田舎か
らの引越しを余儀なくされている）

→通信の手法も違う

スマホを持ち、「電波のある場所」を探す弟と、お
そらくモバイル通信機器を持っていない兄

すでに場所の問題ではない

地方から都会に出てきたコマ兄弟

→人間関係も違う

弟の友達は「西麻布」で遊ぶような人々。兄は、そ
れを見て驚いていることから、そうした人々との付
き合いはない模様

→操る言語も違う

兄はもといたところの方言を操っているが、弟は標
準語も話すことができる（話す相手に合わせて、言
語を変えることができる）

K.Tominaga

K.Tominaga

「コマさん」の元ネタ

「男はつらいよ」シリーズ（1969-1995）



テキ屋稼業を営む「寅さん」が、何かの拍子に故郷の葛飾柴又に戻ってきて大騒動を起こす人情喜劇シリーズ。主なキャラクターとして妹・さくら、博、おいちゃん、おばちゃん（叔父・叔母）。

- 帰る場所としての家・理解者としての家族、わかりあえない存在としてのマドンナ（異性）たち

K.Tominaga

「寅さん」と「コマさん」

- 異質な経歴であっても理解者である「家族」と生きる「寅さん」
- 同様に生きてきたはずだった家族が異質になっていく「コマさん」
 - 同じく”相互理解”を描くものであっても、スタート地点が大きく異なる
 - ⇒ 家族が個人化していない寅さん、家族が個人化しているコマさん

K.Tominaga

個人化のリスク

それまで分かり合える人々が、分かり合えないという事態

→ 家族・地域コミュニティ・企業・学校といった集団をめぐる前提がグローバル化によって変容しつつある

⇒ グローバル化は、多様化もあるが、多様化は同時に個人化を引き起こす

⇒ 個人化は、これまで分かり合えたはずの人々と、分かり合えないリスクを生み出す

K.Tominaga

今日のまとめ

【今週の出席がわりに】

お配りしたレポートを書いてご退席下さい。

K.Tominaga